

- ◆日時： 2019年4月26日（金）16：00～17：30
- ◆会場： 神奈川大学24号館310号室
- ◆主催： 防災塾・だるま
- ◆参加者： 防災塾会員19名、神奈川大学学生5名、横浜福祉協会会員6名 合計30名

演題：「訓練で学ぶ防災・減災」



陸上からの支援が難しく、環境の厳しい船上では、想定外の災害に遭遇することがあります。その場合、臨機応変に行動するには平時の演習・訓練が非常に役に立つことを、これまでの経験を交えて力説されました。そして、災害時には船が人・物資の輸送や被災者の方々への休息場所提供等、支援に貢献できることを、先の東日本大震災における船による支援活動を例に説明されました。さらに、こうした支援活動を通じ、被災地での水確保という深刻な問題に直面して考えられた、折りたたみ式大容量の水輸送・給水タンクが紹介されました。



挨拶する（一社）横浜海洋福祉協会相川会長と講師の赤嶺船長



船上での操練の様子



東日本大震災時、フェリーによる緊急輸送



折りたたみ式大容量の水輸送・給水タンク

- 質問・感想等：
- (1) 津波来襲に対する大型船の対応は。
  - (2) 今の船は外国船員との混乗が多いと聞くと、訓練を行う場合言葉の障壁があるのでは。
  - (3) 平時の訓練の重要性は分かるが、マンネリ化する恐れがある。その対策は。
  - (4) 災害用に浮かぶビル（ホテルのようなもの）を建造できないか。
  - (5) 災害時に船や船員が支援を行っていることを今回知った。もっと一般の方に広く知らせる必要があるのではないか。
  - (6) 環境問題を研究している。もっと環境の話をしてほしい。
  - (7) 生々しい体験談であり、印象に残るものであった。
  - (8) 水の大切さは、防災・減災面での大きな課題である。仙人タンクの商品化を急ぐべきである。
  - (9) 職位順で権限が委譲されていくことは、勉強になった。
  - (10) 異業種の話であり、新鮮味があり、興味深く聞けた。
  - (11) 案内には海陸問わず訓練の大切さを訴えると述べているが、正にその通りである。そのことをもっと強調してほしかった。
  - (12) 学生さんたちは将来リーダーになる。リーダーとしての学ぶべきことを話されていたが、直接的に伝える必要があったのでは。

以上